

## ● 学会発表の内容

### triggerとしてのGn-RHアゴニストの使用は、胚発育および妊娠の成績に影響を及ぼすか

医療法人社団 徐クリニックARTセンター  
清須知栄子 伊藤真理 峰千尋 中塚愛 徐東舜

#### ■ 【目的】

今回我々は、triggerとしてGn-RHアゴニストを使用することで、OHSSの防止はもとより、胚発育および妊娠の成績にネガティブな影響を及ぼさないかどうかを検討した。

#### ■ 【対象】

2014年12月1日から2015年6月4日の期間に体外受精を実施したAMH5.0 ng/mL 以上を対象とした。インフォームドコンセントを得たうえで、hCGとGn-RHアゴニストのいずれをtriggerにするかをアットランダムに分け、両群とも30症例を対象とした。平均年齢は、hCG群：34.3±4.0歳、Gn-RHアゴニスト群：34.3±3.9歳であった。

#### ■ 【方法】

体外受精での採卵個数、受精率、胚盤胞形成率、良好胚盤胞形成率および移植後の妊娠率と流産率を検討した。

#### ■ 【結果】

Gn-RHアゴニスト群では全症例においてOHSSやEFSは認めなかった。hCG群とGn-RHアゴニスト群の胚発育の成績比較では、採卵に関しては平均採卵個数14.1±6.4個 vs. 17.1±6.0個、培養に関しては受精率72.6% (308/424) vs. 63.7% (326/512)、胚盤胞形成率および良好胚盤胞形成率は53.9% (166/308) vs. 54.0% (176/326)、26.0% (80/308) vs. 26.4% (86/326) で両群に差はみられなかった。また、hCG群とGn-RHアゴニスト群の3BB以上の単一胚移植では、妊娠率60.9% (14/23) vs. 53.6% (15/28)、流産率14.3% (2/14) vs. 33.3% (5/15) であり差はみられなかった。

#### ■ 【結論】

OHSSが懸念される症例に対しGn-RHアゴニストをtriggerとして使用すれば、OHSSを予防出来るだけでなく、その後の胚発育などにnegativeな影響も与えず、さらに妊娠や流産に影響を与えないことが明らかとなった。